

暮らしを支える 町会・自治会

身近にあった当たり前

地域を守り、みんなが「住んで良かった」と思えるまちをつくるために活動する。それが町会・自治会です！

町会・自治会ってよく聞くけれど、実際はどんな活動をしているのでしょうか？

当たり前だと思っていた毎日の暮らしは、町会・自治会に支えられていました。

掲示板や回覧板で情報共有

ごみ収集場所の管理や地域の清掃できれいなまちづくり

防災訓練や防災倉庫の設置で非常時に備える

まちを安全に照らす防犯灯の設置・管理

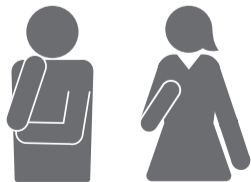
子どもや高齢者の見守りや安全パトロール

運動会や祭りなど地域ごとに特色あるイベント



よくある質問

町会・自治会には加入しないといけないの？
仕事で日中は不在だし、地域とはあまり関係がないように思います。



市からの回答

町会・自治会が行う防犯灯の設置やごみ収集場所の管理は、地域で暮らす皆さんの生活に必要不可欠な取り組みです。また、災害が起こった場合、まず頼りになるのは町会・自治会です。

町会・自治会の加入は強制ではありませんが、地域の暮らしと皆さん一人一人の生活を守るため、ぜひご加入ください。

※町会・自治会によって活動は異なります。

これから加入を希望する人は、お住まいの地域の町会・自治会にご連絡ください。連絡先が分からない場合は、市民自治課またはお近くの支所にお問い合わせください。※町会・自治会の連絡先は、個人情報保護のため窓口でのみお伝えしています。

町会・自治会の主な活動をご紹介します

※町会・自治会によって活動は異なります。

広報活動

～地域の情報発信の場！～



ポスターを掲示板に貼り出します

回覧板を届けに行く、
つついおしゃべりしちゃうよ



回覧板は会話のきっかけ

市からの情報や地域に密着したイベント情報などを、町会・自治会が設置・管理している掲示板や回覧板でお知らせ。お得な情報もあるかもしれません。同じイベントに参加するご近所さんと会話するきっかけになったり、回覧板を持って行くついでにちょっとおしゃべりをして息抜きをしたり。情報発信だけではなく、人と人がつながるきっかけづくりにも一役買っています。

防災

～非常時に助け合える絆づくり～



体育館での避難所開設訓練



知識が行動につながる救命講習

身体の不自由な人や高齢の人、小さな子どもがいる人など、地域にはさまざまな人が暮らしています。地域の実情に合わせた防災訓練をはじめ、普段から「顔の見える関係」をつくることで、いざというときの助け合いにつながります。

環境・美化活動

～きれいなまちで、気持ち良い暮らし～



花壇いっぱい花が咲く日を楽しみに、
花の苗を植えます

ごみ収集場所の日常的な管理や、クリーンデー、緑のカーテン活動は、きれいで住みやすいまちを保つために欠かせません。そのためには、一人一人の小さな活動の積み重ねを継続することが大切です。

中和倉連合町会は、県立松戸高校の生徒・先生と協力して、町会エリアの清掃活動に取り組んでいます。参加した生徒たちは「活動を通じて、地域の皆さんといろいろな話ができました」と、世代を超えたコミュニケーションを楽しんでいました。



中和倉連合町会と県立松戸高校の生徒・先生が協力して清掃活動

パトロール・見守り

～地域の安全は地域で守る！～

顔なじみになった子どもたちが
まちなかで声をかけてくれる
とうれしくなります

「子どもたちが安心して登下校できる地域でありたい」と、登下校時の見守りやパトロールを実践しています。最初は恥ずかしそうに小さい声であいさつしてくれていた子どもが、気付けば元気に「いってきます！」「今日はこんなことがあったよ！」なんて、声をかけられるようになることも。みんなで地域を見守り、安全・安心を確保することが大切です。



晴れの日も雨の日も、子どもを見守る存在です



「いってきます」「いってらっしゃい」の
あいさつから、信頼が生まれます

地域交流

～顔見知りから広がる人の輪♪～



できる限り死角が少なくなるよう防犯灯を設置しています

防犯

～あなたを見守る優しい灯り～

防犯灯は町会・自治会が設置し、日常的に管理・点検・修理などを行っています。歩道が明るいことで犯罪抑止や事故防止につながります。心細い夜道、疲れた帰り道を、優しい灯りが寄り添ってくれます。

まちが明るいと
夜道も安心だね



大鍋をフル稼働して料理を振る舞います。寒空の下でも大行列



華やかなダンスに、客席からは拍手喝采

外出が困難な人たち
に対しても何かできないか
日々考えています

世代間交流は刺激に
なります

健康増進や引きこもり対策の一環となる「健康体操」や地域運動会、音楽祭など、地域ごとに特色あるイベントを開催しています。近所の学生がボランティアスタッフとして参加をしてくれたり、普段はなかなか会えない人たちとも話ができたり、地域のつながりが広がる良い機会です。

いざ地域へ!



まつど地域活躍塾生奮闘記

やってみて初めて分かる地域活動の楽しさ。まつど地域活躍塾の第3期生が、町会・自治会等の活動に参加しました。

まつど地域活躍塾とは

地域で活動し活躍できる人材を育成するため、市が開講している講座です。2019(令和元)年度は第3期を開講中で、塾生は7月からさまざまなテーマの講座を受講し、ワークショップや興味がある活動の実地体験を行っています。



岩瀬自治会の活動に参加

まつど地域活躍塾第3期生 矢代緑さん

多世代にわたる活動に驚き

岩瀬自治会(神田正昭会長)は、自治会館「いわぼんホール」を拠点とした親睦活動に力を入れています。塾生の矢代緑さんが参加した「岩瀬ワインの会」は、毎回産地にゆかりのある人の講演を聞き、興味を深めた上でワインを楽しむイベントとして、2013(平成25)年から年間4回ずつ開催しています。

10月に開いた通算29回目のテーマはドイツ。楽しみにやってきた約70人のために、矢代さんは料理や飲み物の準備に会場を駆け回ります。「学生、子育て世代から高齢者まで、多世代にわたる交流を見てびっくりしています。本当に素晴らしい。このような場があることを知ることができただけでも、松戸に住んでいてよかったと思います」と、自治会の活発な活動に感激しきり。

毎日の暮らしの中で、地域で活動する町会・自治会の重要性を感じていたという矢代さんは、実際に活動してみて考えることも増えてきた様子。「盆踊りの踊りを教えられる人が少なくなってきたという話を聞くと、世代を超えて引き継ぐことも大切だと思います。課題をしっかりと見つけてしっかりと勉強して、地域の役に立ちたいです」



コミュニティカフェの運営を夢みて地域活動に打ち込む矢代さん(左)



コミュニティ五番街の活動に参加

まつど地域活躍塾第3期生 中脇さん夫妻

スタッフの気配りに感動

中脇美香さん(左)と辰則さん

塾生の中脇さん夫妻は、ご自身が住むマンションで、いずれはコミュニティ活動ができないかと模索中です。今回は、14階建てのマンション8棟に住む住民からなるコミュニティ五番街(佐藤隆志理事長)の「カレーを食べる会」に参加しました。

「カレーを食べる会」は63回目を迎え、事前に申し込んだ80人を超える高齢者が集まりました。同会は親睦を深めるだけではなく、安否確認の意味もあり、欠席した人にはスタッフが連絡を取ります。食事だけではなく、スタッフの伴奏で歌を歌い、口腔体操などのレクリエーションや、誕生日の人がいれば、誕生日会となることも。

「事前のレクチャーで、高齢者を対象に、他にもごみ出しや声かけなどの活動をされていることを知りました。年をとっても安心して生活できる仕組みがあることに驚きました」と美香さん。

会が始まると、中脇さん夫妻は、参加者の誘導に、テーブルセッティングに、そして配膳にと、動き回ります。美香さんは「周りのスタッフの方が、細かなところまで気を配られていて、参加者への愛情を感じました」と感動。辰則さんは「自分の住むマンションでも是非このような会を行いたい」と今後の活動に意欲をみせていました。



関西から引っ越してきたばかりの中脇さん夫妻(中央)。「松戸のコミュニティ活動は活発」と感心しきり

広告